

動画はこちらから→



←動画はこちらから



やくわ ふとし 太 議員

陸羽東線の早期復旧要請を強力に運転再開への必要性を感じる



第8回最上小国川写真コンテスト優秀賞作品

質問 7月25日、山形県
北部地方を襲った豪雨により、道路や鉄路も通行止めや運休が発生し、利用者は通勤、通学等の移動において不便な日常を送っています。

JR陸羽東線も甚大な被害を受け、復旧の見通しすら示されていない状態です。

バス代行では不便を強いられ、自家用車での送迎等、家族の負担も増し

ています。
陸羽東線はJR東日本の中でも輸送密度が低い赤字路線であることから、JR側は被災を契機に復旧を目指さず廃線や沿線自治体の大きな負担を求める動きが懸念されています。まさに存続の危機に直面している今、早期の復旧を強力に訴えるべきと考えますが、町長の考えを伺います。

7月25日の豪雨により被害を受けたJR陸羽東線については、県及び最上地域8市町村を含む沿線市町村や商工会、観光協会などの関係団体で構成されている「陸羽東西線利用推進協議会」において令和7年1月にJR東日本東北本部に早期復旧と、運転再開の要望を行つてきましたことを確認しております。

陸羽東線については、当町内に東長沢、長沢駅の2つの駅を有しており、通勤、通学をはじめ生活に関わる移動手段の一つであります。先に被災した米坂線の現在の状況を見ますと、JR側から

早い復旧工事への着手と、

運転再開への必要性を感じております。

当町としても、1日も

早い復旧工事への着手と、

運転再開への必要性を感じております。

JR側から

は復旧後の管理や運営について、色々なパターン

での提案と共に、県を含め沿線市町村に大きな負担や条件を求めているよ

うですが、廃線にしてはならないと思っておりま

す。

関係団体とともに要望を

行つてまいりたいと考えます。

今後も沿線自治体及び

関係団体とともに要望を

行つてまいりたいと考えます。

紫山地内を走るSLゆけむり号（2008年撮影）



耕畜連携による農地の有効活用（福寿野地内）

質問 今般、農林水産省が示した試算によると、2030年の国全体の耕地面積は2020年比で35%減、2030年の農業者数は54万経営体で、2020年比で54万経営体の減率で50%減であり、私自身も大きなショックを受けています。町の基幹産業である農業、その土台となる農地の維持、保全が重要と考えます。耕作放棄地を出さな

いための方策をお聞きします。



おくやま けんぞう 奥山 謙三 議員

農地の維持保全を推進耕作放棄地を出さない方策は

町長 同試算は、規模拡大や生産性向上を考慮しているません。当町の2020年の米の生産者数は336人、2024年では268人と、4年間で5%減少しており、6年後には268人と、4年間で5%減少してあります。一方で、1農家あたりの作付面積は、2020年の2.8haが、2024年では3.2haと、4年間で13.9%増加し、経営規模の拡大が進んでいます。また、耕作放棄地を出

いための方策をお聞きします。



おくやま けんぞう 奥山 謙三 議員

質問 地域計画策定の第1回の話し合い

も効果が高いのは圃場整備事業です。現在当町では、5地区259haを県営事業で整備中です。そのほか、農地の保全を目的とする多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払交付金活用が有効で、今年度の事業実施面積は110.1haとなり、当町の田の面積1330haの82.8%を占めています。

今後も両事業を活用して、農地の維持保全を推進したいと考えています。



おくやま けんぞう 奥山 謙三 議員

質問 町では耕作放棄地、遊休農地、荒廃農地の面積は把握しているのか。

農業振興課長 毎年遊休農地の調査を実施し、今年4月時点では17haです。

質問 第2回の地域計画の話合いを進めるために、より多くの耕作者、地権者から参加して貰う事が重要と思うが、町の参考は。

農業振興課長 参加人数は34人で割合は26.3%です。

質問 地域計画の話合いを進めるためには、多くの参加者が必要です。広報お知らせ版や防災無線、認定農業者協議会を活用しながら参加呼びかけたいと考えています。

農業振興課長 農地の集約化についてしっかり話

圃場整備により、大区画された見事な農地（三光堰西3期）